

ETVのISO化に関する国際動向

1. IWG - ETVの最新動向

アメリカ、カナダが中心となり、ETV事業の国際連携・相互認証に向けた作業部会として、IWG - ETVが立ち上げられた。ETV事業を実施している、カナダ、欧州委員会、韓国、フィリピンがメンバー国であり、日本、米国、中国はオブザーバーとして参加している。

2012年9月13日に韓国のソウルで第9回IWG - ETVが開催されるとともに、2か月ごとに開催される電話会議で、ETVを実施する各国間での情報共有が行われている。今後、2014年1月頃にカナダにて（時期・場所については変わる可能性あり）第10回IWG - ETVが開催される見込み。

第9回IWG - ETVの概要は以下のとおり。

第9回IWG - ETV（2012年9月13日、韓国・ソウル）

環境技術実証事業（ETV）の普及を目指す第5回国際ETVフォーラムの後に開催され、以下の議題の検討と各国のETVの最新動向の共有がなされた。メンバー国のカナダ、欧州委員会、韓国、韓国、オブザーバー国の中国及び日本のほか、ベトナム、インドネシア、マレーシア、カンボジア、シンガポール等の東南アジアの国々が参加した。

（第9回IWG - ETVの検討議題）

普及啓発の展開

IWG - ETVの共通ウェブサイトの創設

ISOプロセスへのインプット

IWG - ETVのパンフレットの作成

エコラベル等他の機関との連携

2. ISO化の動向

環境技術実証事業（ETV）に係る提案書（NWIP）が2012年10月16日にISO事務局により正式に受理され、ISOのTechnical Committee207のSub Committee4（SC4）にてISO-ETVが検討されることとなった。11月8日に、ISO事務局からTechnical Committee207のSub Committee4のメンバー国に対し、提案に対する検討の賛否の照会がなされ、その結果、2013年2月8日に国際標準化機構（ISO）より、賛成多数で可決となったとの連絡があった。

その後、2013年5月にETVの国際標準化の草案を検討するための、各国から推薦される専門家より構成されるワーキンググループ(WG)が立ち上げられ、同WGの主査であるカナダよりワーキングドラフト(資料3-4-2参照)が配布された。また、同年6月に第1回WGが開催され、これに参加した。今後、平成25年10月に第2回、平成26年1月に第3回が開催される予定となっている。

第1回ISO-WGの概要は以下のとおり。

第1回ISO-WG(2013年6月25日~26日、ポツワナ・ハポローネ)

第1回ISO-WGの検討議題、及びSC4に提出されたRecommendationは以下のとおり。日本及びWG主査のカナダのほか、米国、韓国、欧州諸国(フランス、ポーランド、英国等)、インド、タイ、中国等の国々が参加した。

(第1回ISO-WGの検討議題)

各国(アメリカ、EU、フランス、日本)のETVの紹介(日本の説明資料を資料3-4-3に示す)

ワーキングドラフトの内容についての議論

Conformity assessment(適合性評価)についての説明・議論

ISOにおける用語の定義についての説明・議論

(SC4に提出されたRecommendation)

第1回WGの議論を反映したワーキングドラフト0.1版を送付するので、それに対するコメントを9月15日までに提出する。

7月末までに、自国のETVスキームの詳細をセクレタリーに送付する。

各国メンバーは、次の会合までにISO 17020/ISO 17025/ISO 17065等の適合性評価に関係する規格についてレビューし、精通するようにする。

第2回会合は10月2週目にカナダで開催、第3回は1月末にパリ、第4回を次回のTC207パナマ総会で開催する。

適合性評価の要求事項を規格に含めるため、ISO/CASCO(適合性評価委員会)に共同主査(co-convenor)をお願いする。SC4に対し、ISO中央事務局(ISO/SC)に規格番号を"18634"から"14034"に変更するように申し出ることを要求する。